

「第6次和歌山県環境基本計画（素案）」に対する県民意見

	頁	意見	対応
3章 気候変動	28	<p>以下のとおり具体的記載を追加されたい。</p> <p>3-1-4 具体的な取組の展開                      (3) 脱炭素に向けた地域づくり                      本県では、地域資源である再生可能エネルギーを活用し、蓄電や水素利用等（水素、アンモニア、合成燃料及び合成メタン）の新しい技術も取り入れることで、脱炭素で強靱かつ柔軟なエネルギー供給を可能とする自立分散型のエネルギー社会の推進を図ります。</p>	<p>ご意見を踏まえ、国の計画に沿った具体的な例について、欄外に注釈として記載する。</p> <p>…水素利用等<sup>※12</sup>の新しい技術…</p> <p>※12 水素は燃料電池の燃料として用いられるほか、アンモニアや合成メタン、合成燃料の基盤となる材料であり、2050年ネット・ゼロ実現に向けて幅広い分野での活用が期待されています。</p>
	31	<p>農業従事者として、豪雨は多いが全体的に降水量は減っていると感じる。気候変動による高温対策には多くの記載があるが、水不足に関する視点は不足しているのではないか。</p>	<p>降水量が減少しているというデータは示されていない一方、降雨パターンの変化により局所的な渇水リスクは上昇すると予想される。渇水リスクに対しては、農業インフラの更新整備等を記載しているため、原案のとおりとする。</p>
4章	63	<p>和歌山県の脱炭素に向けて、総合的な話の進め方も必要である一方、実務的には和歌山県初の商品や各大学との研究開発にさらに目を向ける必要があるのではないか。また、最新の技術に関する勉強会等も開催されたい。</p>	<p>本計画では、国等や大学をはじめとした教育研究機関と連携し、さらなる交流や共同研究を目指すことと記載しているため、原案のとおりとする。</p>
5章	66	<p>以下の記載とされたい。</p> <p>5-2 事業者の役割                      ・脱炭素電源と組み合わせたヒートポンプ（エコキュート等）の導入等により社屋の電化を進めること。もしくは天然ガスコージェネレーション<sup>※31</sup>の導入等による高効率なエネルギー利用と省エネルギー化に努めること。</p>	<p>ご意見を踏まえ、国の計画の記載に沿った標記とし、以下のとおり修正する。</p> <p>・脱炭素電源由来の電力の導入を進めるとともに、電化が可能な分野においては、ヒートポンプ（エコキュート等）の導入等により社屋の電化を進めること。また、電化が困難な分野においても、天然ガスコージェネレーション<sup>※31</sup>等の導入による高効率なエネルギー利用を進め、省エネルギー化に努めること。</p>